

# 鹿児島県障害者スポーツ 普及検討委員会

## 第9回検討委員会



### 燃ゆる感動 **かごしま大会**

第20回全国障害者スポーツ大会 熱い鼓動 風は南から 2020

※ 燃ゆる感動かごしま大会マスコットキャラクター・ロゴデザイン



※ 全国障害者スポーツ大会シンボルマーク

# 鹿児島県障害者スポーツ普及検討委員会

## 第9回検討委員会 資料目次

### ○ 報告事項

- ・報告事項1 第19回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」 … 1  
における鹿児島県選手団の派遣について
- ・報告事項2 令和元年度障害者スポーツ振興事業の実施状況について … 2
- ・報告事項3 令和2年度九州ブロック地区予選会 ※（団体競技）について … 8  
※燃ゆる感動かごしま大会リハーサル大会
- ・報告事項4 全国障害者スポーツ大会競技規則等の改正について … 9



(報告事項1) 第19回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」  
における鹿児島県選手団の派遣について

1 第19回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」概要

(1) 大会名・愛称・スローガン

- ・ 大会名 : 第19回全国障害者スポーツ大会
- ・ 大会愛称 : いきいき茨城ゆめ大会
- ・ スローガン : 「翔べ 羽ばたけ そして未来へ」

(2) 開催期間

令和元年10月12日(土)～14日(月・祝)

(3) 場所

笠松運動公園陸上競技場 他

※ 茨城県内 7市(日立市, 常陸太田市, ひたちなか市, 水戸市, 結城市, つくば市, 取手市)

(4) 参加予定人員

約5,640人(選手:3,640人, 役員:約:2,000人)

(5) 実施競技

個人競技: 陸上, 水泳, アーチェリー, 卓球, フライングディスク

団体競技: バスケットボール(知), ソフトボール(知)

グランドソフトボール(身), サッカー(知)

車いすバスケットボール(身), バレーボール(身・知・精)

フットベースボール(知)

オープン競技: 卓球バレー, ハンドアーチェリー, ブラインドテニス

車いすダンス, スポーツウェルネス吹矢, グラウンド・ゴルフ

2 鹿児島県選手団の派遣結果について

(1) 鹿児島県選手団概要

- ・ 選手団団長 : 花木 千鶴(県手をつなぐ育成会理事長)
- ・ 選手・役員数: 選手49名, 役員40名(計89名)

(2) 派遣結果

- ・ 10月10日(木) 選手団を茨城県へ派遣。
- ・ 茨城県到着後, 大会本部より大会中止を発表(台風19号の影響を考慮)
- ・ 翌日, 10月11日(金) 新幹線にて選手団帰郷

## (報告事項2) 障害者スポーツ振興事業の実施状況について

### 1 令和元年度障害者スポーツ振興事業の概要

#### (1) 事業の目的

第20回全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」の開催に向けて、参加選手の確保・育成を図るとともに、大会開催を契機として、障害者スポーツを普及拡大し、障害者の社会参加の促進を図ることを目的とする。

#### (2) 実施方法

鹿児島県障害者スポーツ協会への委託事業として実施

(事業の実施に当たり、県身体障害者福祉協会、県手をつなぐ育成会、県障害者自立交流センターに協力を依頼)

#### (3) 事業内容

- ア 個人競技普及(個人競技・団体競技)
- イ 選手育成・競技力向上
- ウ 障害者スポーツ活動の拠点づくり
- エ 支援体制整備

### 2 個人競技普及(個人競技・団体競技)

#### (1) 障害者スポーツ体験教室の開催

障害者スポーツの裾野拡大を目的に、障害者スポーツ未経験者や競技歴の浅い方を対象として、競技体験や基本的ルールの習得を行う障害者スポーツ体験教室を開催。

#### 【実施状況】

実施区分	実施回数	実施競技	参加者	講師・補助員等	総数 (補助員等含む)
体験教室(個人競技)	5回	5競技 (陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球、ボウリング)	76人	30人	106人
体験教室(団体競技)	11回	6競技 (バスケットボール、車いすバスケットボール、ソフトボール、グラウンドソフトボール、フットベースボール、ハレーボール(身・知))	301人	156人	457人

#### 【体験教室の一例】

##### ○水泳体験教室

日時：令和元年9月8日(日) 15:30～17:30

場所：名瀬中学校温水プール

参加者：20人 講師・補助員等：12人

##### 内 容

水泳連盟より講師・補助員を派遣していただき、参加者の習熟度別にコース分けして、基本的な泳法指導を行った。

また、水泳初心者の方に対しては遊びの要素を取り入れるなど、水に慣れるための取組を行った。

#### 実施結果

離島で開催することにより、新たな選手発掘に寄与する取組となったと考える。

また、経験者の方については、正しい泳法指導を行うことにより更なる競技力向上が図られ、初心者の方については、水泳競技を体験する良い機会になったと考える。

## (2) 競技用具の整備・貸出

障害者スポーツ体験教室やレベルアップ教室等に使用する競技用具を整備するとともに、特別支援学校や障害者支援施設等に貸出を行うことで競技体験の機会を創出し、障害者スポーツの裾野拡大を図る。

### 【整備した主な競技用具】

- ・車いすバスケットボール用車いす（3台）

※障害者スポーツ体験教室で使用

## 3 選手育成・競技力向上

### (1) 障害者スポーツレベルアップ教室の開催（個人競技）

選手の育成を目的として、全国障害者スポーツ大会で実施される個人競技経験者を対象としたレベルアップ教室を開催。レベルアップ教室では、専門指導者による指導やタイムトライアル等を行い、競技力の向上を図る。

### 【実施状況】

実施区分	実施回数	実施競技	参加者	講師、補助員等	総数 (補助員等含む)
レベルアップ教室	6回	6競技 (陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスク、ホウリング)	109人	32人	141人

### (2) 団体競技チーム活動費助成

全国障害者スポーツ大会で実施される団体競技の県代表チームが、競技力向上を目的として実施する九州ブロック予選会に向けた練習会や合宿等の経費の一部について助成を実施。

### 【実施状況】

- ・令和元年度九州ブロック予選会に出場の12チームに助成を実施。
- ・助成金の主な用途については、県外遠征が最も多く、各チームは県外で開催される大会に積極的に出場し、競技力向上に努めている。
- ・燃ゆる感動かごしま大会に向けた強化練習会の開催や、共用のユニフォームの作成などの取組を行っている。

## 4 障害者スポーツ活動の拠点づくり

かごしま大会を契機とした障害者スポーツの普及・拡大の取組として、かごしま大会以降も、地域において障害者が身近にスポーツに参加できる拠点づくりを目的に、障害者スポーツ導入研修会、地域における障害者スポーツ教室を実施。

### (1) 障害者スポーツ導入研修会の開催

地域での障害者スポーツ活動の中心となる人材を養成するため、障害者スポーツ導入研修会を開催。

### (2) 地域における障害者スポーツ教室の開催

障害者スポーツ導入研修会を開催した地域において、実際に障害者スポーツ教室を開催。



【実施状況】

【障がい者スポーツ導入研修会・地域におけるスポーツ教室】

(単位:人)

日時	名称	会場	受講者・教室参加者
6月8日(土)	障害者スポーツ導入研修会 【中種子会場】	種子島中央体育館	11
6月9日(日)	地域におけるスポーツ教室 「ボッチャ・フライングディスク」	種子島中央体育館	39
2月29日(土)	障害者スポーツ導入研修会 ※ 【出水会場】	出水市中央公民館・レストケア出水	0
3月1日(日)	地域におけるスポーツ教室 ※ 「ボッチャ・ラダーゲッター」	レストケア出水	0
<u>受講者計</u>			11
<u>教室参加者計</u>			39

※ 出水会場については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

※ 参考資料：障害者スポーツ活動の拠点づくり（中種子会場）報告書

5 支援体制整備

(1) 指導員養成講習会

(公財)日本障がい者スポーツ協会公認の障害者スポーツの指導者資格である初級障がい者スポーツ指導員の養成講習会を開催。

(2) 指導員フォローアップ研修会

障がい者スポーツ指導員の資質向上のためのフォローアップ研修会を開催。

県内の障がい者スポーツ指導員を対象に、障害者スポーツ活動を実施する上での工夫や留意点について、より実践に近い形で研修を実施。

【実施状況】

【指導員養成講習会・指導員フォローアップ研修会】

(単位:人)

日時	名称	会場	受講者
8月23日(金) 8月24日(土) 8月25日(日)	障がい者スポーツ指導員養成講習会 【南薩会場】	知覧育成園	16
8月24日(土)	障がい者スポーツ指導員フォローアップ研修会	知覧育成園	22
<u>計</u>			38

# 障害者スポーツ活動の拠点づくり（中種子会場）報告書

## 【1日目】障害者スポーツ導入研修会

### ① 講義「本県における障害者スポーツの現状と課題」

障害者スポーツに関する国の動向や全国障害者スポーツ大会の概要、燃ゆる感動かごしま大会に向けた取組等を紹介。

地域における障害者スポーツの拠点をつくるため、その中心となる人材を養成する研修会であることに触れ、目的意識を持って受講してもらうよう講義を行った。



(講義風景)

5 地域における障害者スポーツの拠点づくり

(4) 本研修会参加者に期待すること

【研修会の目的】  
地域の障害者がその地域で恒久的にスポーツに親しむ環境をつくるため、その中心となる人材を養成する。

- スポーツを取り巻く環境は、地域によって様々。
- 地域の実情に応じて、障害者がスポーツに参加しやすい環境をつくる必要がある。

↓

それぞれの地域に、  
障害者スポーツに精通した優秀なリーダーが必要。

(講義資料例)

### ② 講義・実技「ボッチャ」・「フライングディスク」

ボッチャ、フライングディスクの概要や基本的ルールの指導後、実際に競技を行いながら、審判の方法等を習得。



(ボッチャ：ルール習得)



(ボッチャ：実技指導)



(フライングディスク：概要説明)



(フライングディスク：実技指導)



③ 講義「魅力あるイベントづくり」

実技終了後にグループワークを行い、実技を実施した中で感じた問題点やヒヤリハット、改善点について、グループ毎に発表。

また、スポーツ教室等を企画、実施する上での必要な安全管理やリスクマネジメント等について講義を行い、翌日のスポーツ教室に向け、役割分担や参加者への配慮事項、安全対策等についてグループワークを行った。



(グループワークの様子)

実習ワークシート

◎実習参加者全員が、対象者等とのグループワークを行います。 研修事項

参加者名	所属機関

①本講義のグループワークは、実習者自身が「実習」を行うためのワークシートとして活用してください。

実習内容(実施内容)	実習結果

②本講義のワークシートは、実習者自身が「実習」を行うためのワークシートとして活用してください。


(グループワーク資料)

【2日目】地域における障害者スポーツ教室

① ボッチャ・フライングディスク教室

実際に障害のある方を対象としたボッチャ・フライングディスク教室を開催。

導入研修会の受講者が、教室の準備や競技の審判、参加者のサポートなど、教室の運営補助を行い、障害者スポーツ教室に関する経験・ノウハウを蓄積。



(グループ毎に準備運動を実施。参加者と事前にコミュニケーションを深める)



(研修会受講者による実技指導：ボッチャ)



(研修会受講者による実技指導：フライングディスク)



(ボッチャ：研修会受講者が審判を実施)



## 【総括】

- ・ 中種子町の「よいらーいきスポーツクラブ」(以下、「クラブ」という)の協力を得て開催し、特別支援学校教員や理学療法士、施設職員など多くの方が参加。
- ・ クラブの協力を得て、会場として種子島中央体育館を確保。  
今回の研修会で実施したボッチャとフライングディスクの普及を図ることを目的とし、ボッチャセット及び、フライングディスクアキュラシーセットをクラブへ貸与。  
今後はクラブにおいて、用具を活用した障害者スポーツ活動の展開が期待できる。
- ・ 導入研修会受講者及び講師において、競技実施に係るヒヤリハットをお互いに確認するためのミーティングを実施。  
ミーティングにおいて発表された問題点や解決策は、今後の活動計画策定の際に活用されることが期待される。
- ・ 研修会終了後に、研修会受講者を「拠点づくりサポーター」として登録。  
クラブが開催するスポーツ教室等の指導者、補助員の募集時に登録情報を活用することにより、多方面・多職種のサポーターの連携による地域における障害者スポーツ活動の活性化が期待できる。



(閉校式)



(ボッチャ・フライングディスクアキュラシーセットを貸与)



### (報告事項3) 令和2年度九州ブロック予選会(団体競技)について

#### 【代表チームの選定方法について】

- ①:九州ブロック予選会の出場権をかけた大会を実施し、優勝チームを県代表チームとしているもの。
- ②:全国障害者スポーツ大会出場を目指して活動を行うチームが、当該チーム以外にないもの。
- ③:県内に複数あるチームから、選手を選抜しチームを編成しているもの。

競技名 (対象障害)	開催日・場所	性別	代表チーム 選定方法	本県代表チーム	(参考) 令和元年度九州ブロック 予選会結果
バスケットボール (知的障害)	5月16日、17日 始良市 始良市総合運動公園体育館	男子	②	Kagoshima Balders かごしまバルダース	・参加チーム数: 8チーム ・優勝: 福岡市 ・本県チーム: 2回戦敗退
		女子	②	Kagoshima Balders かごしまバルダース	・参加チーム数: 6チーム ・優勝: 沖縄県 ・本県チーム: 準優勝
車いす バスケットボール (車いす使用の肢体不自由)	5月16日、17日 いちき串木野市 いちき串木野市総合体育館	混合 可	③	鹿児島県選抜チーム	・参加チーム数: 9チーム ・優勝: 福岡県 ・本県チーム: 2回戦敗退
ソフトボール (知的障害)	5月17日 南九州市 知覧平和公園多目的球場	混合 可	③	ソフトボール鹿児島 代表選抜チーム	・参加チーム数: 5チーム ・優勝: 長崎県 ・本県チーム: 1回戦敗退
グランド ソフトボール (視覚障害)	5月16日、17日 指宿市 開聞総合グラウンド	混合 可	②	サツマレックス	・参加チーム数: 8チーム ・優勝: 福岡県 ・本県チーム: 準優勝
フットベースボール (知的障害)	5月17日 南九州市 知覧平和公園陸上競技場	混合 可	②	鹿児島県代表チーム	・参加チーム数: 5チーム ・優勝: 熊本県 ・本県チーム: 準優勝
バレーボール (聴覚障害)	5月17日 鹿児島市 桜島総合体育館	男子	②	排球かごしまドリーム	・参加チーム数: 4チーム ・優勝: 長崎県 ・本県チーム: 1回戦敗退
		女子	②	排球かごしまドリーム	・参加チーム数: 5チーム ・優勝: 沖縄県 ・本県チーム: 1回戦敗退
バレーボール (知的障害)	5月17日 鹿児島市 桜島総合体育館	男子	②	排球かごしま	・参加チーム数: 4チーム ・優勝: 北九州市 ・本県チーム: 準優勝
		女子	②	排球かごしま	・参加チーム数: 3チーム ・優勝: 福岡県 ・本県チーム: 準優勝
バレーボール (精神障害)	5月16日、17日 鹿屋市 平和公園串良平和アリーナ	混合	①	鹿児島県選抜チーム	・参加チーム数: 10チーム ・優勝: 福岡県 ・本県チーム: 準優勝
サッカー (知的障害)	5月16日、17日 霧島市 国分運動公園 (陸上競技場、多目的広場)	混合 可	②	鹿児島県代表チーム	・参加チーム数: 7チーム ・優勝: 沖縄県 ・本県チーム: 2回戦敗退

※ 「燃ゆる感動かごしま大会リハーサル大会」では、鹿児島県チームは交流試合のみの参加となるが、「燃ゆる感動かごしま大会」では、交流試合の結果に関わらず、全チームが出場することになる。



## 令和2年度 全国障害者スポーツ大会（鹿児島大会）

### 競技規則・解説 改正概要

#### ■ 大会開催基準要綱への「競技別会期の決定」の明記

現在、大会会期については、開催3年前までに開催地主催者が中央主催者と協議して決定することとなっているが、競技別会期については明記がされていなかった。開催県だけでなく、競技を実施する区市町村においても苦慮しながらの大会準備となっている状況があり、平成31年2月の全国障害者スポーツ大会大会委員会での協議のうえ、令和2年度の大会開催基準要綱より要綱内「5. 大会開催の基本方針」へ競技別会期を以下のとおり明記することとした。

「競技別会期は、開催2年前の年度末までに開催地主催者が中央主催者と協議して決定する。」

#### ■ 大会開催基準要綱への「大会開催の可否決定」の追記

令和元年度（茨城大会）が台風の影響で中止になったことを受け、大会開催の可否決定について、スポーツ庁をはじめ、開催予定県、全国障害者スポーツ大会大会委員会にて協議をしてきた。今回、「不慮の災害にあうことが予測される場合」も追記され、主催者間で可否決定の協議を事前に行い、方針を定めることとした。結果、令和2年度の大会開催基準要綱より要綱内「17. 大会開催の可否決定」は以下のとおり明記することとした（それに関して、別に「全国障害者スポーツ大会 荒天時等対応要領」を策定した）。

##### 「17. 大会開催の可否決定」

大会開催地都道府県が、大会開催時までには又は会期中に不慮の災害にあった場合、又はあうことが予測される場合、開催地主催者が中央主催者と協議し、開催の可否を決定する。この場合、実施不可能な競技が3分の2程度に達した時は、大会を中止するものとし、3分の2程度に達することが予測される時は、開催の可否を検討することとする。なお、その決定に関する手続き、その他、必要な事項については別に定める。」

#### ■ 精神障害者の参加資格の変更

令和2年度全国障害者スポーツ大会より、参加資格を「精神障害者保健福祉手帳」所持者または、「自立支援医療（精神通院）受給者証」取得者のみとする（通院証明書をを用いての証明対応は廃止する）。精神障害者保健福祉手帳所持者のみとすることも検討した（平成28年度公表済）。別に、日本精神保健福祉連盟精神障害者スポーツ推進委員会にて、全国6ブロック大会での調査を実施した。調査結果より、参加資格を手帳所持者のみとすることは引き続き協議事項とすることとした。

#### ■ 障害区分（視覚障害区分）の改正

平成30年7月より施行された新障害等級により、視覚障害の判定基準が以下のとおり変更されたため、それに伴い、障害区分を改正する。

現行：両眼の視力の和で障害区分を判定

改正：良い方の視力で障害区分を判定

注1：指数弁～光覚弁については、以下の視力として換算する。

指数弁は「0.01」、手動弁～光覚弁は「0」として判定する。

注2：視力は、手帳と同様に矯正視力（眼鏡、コンタクトレンズ等を使用した視力）で判定を行う。



## 【経緯】

平成 30 年度（福井大会）より、陸上、水泳、卓球（STT 含む）について、障害区分と障害等級（視覚障害の判定基準、手帳等級表の表記）の相違を是正し、身体障害者手帳での障害区分判定を明確にするために視覚障害区分の改正を行った。

ただし、「今後、障害等級の見直しがされた場合は、その都度障害区分の見直しを実施する」ことを明記した（平成 28 年度公表、平成 30 年度導入実施）。

## ■卓球（STT）競技の規則改正

STT において、「打つ」とは、プレー中に競技者がラケットハンドに握ったラケットのグリップを除く部分でボールに触れることであったが、令和 2 年度より、「打つ」とは、競技者の握ったラケット（グリップを含む）およびラケットハンドでボールに触れることとする。

グリップ及びラケットハンドで打球した場合、打球音がすれば有効であるが、打球音がしない時には、ホールディングとし無効とする。

### 【変更理由】

（公財）日本卓球協会現行ルールに合わせたため（日本視覚障害者卓球連盟では平成 31 年から変更）。

## ■その他

### 【水泳競技におけるプール水深に関する注意喚起について】

水泳の飛び込みにおける事故が発生していることもあり、（公財）日本水泳連盟では、平成 17 年 7 月に「プール水深とスタート台の高さに関するガイドライン」を作成し、安全な競技運営や練習環境の整備について周知を行っている。そのため、全国障害者スポーツ大会やその予選会においてもガイドラインをもとに規則に明記し、注意喚起を行う。

参考：（公財）日本水泳連盟発表資料 [http://www.swim.or.jp/about/download/rule/g\\_02\\_2.pdf](http://www.swim.or.jp/about/download/rule/g_02_2.pdf)  
「スタートの段階指導」および「プール水深とスタート台の高さに関するガイドライン」

## 令和 3 年度 全国障害者スポーツ大会（三重大会）

### 競技規則・解説 改正予定

## ■ボッチャ競技の導入

- ①令和 3 年度全国障害者スポーツ大会より、正式競技（個人競技）としてボッチャを導入することとする（平成 28 年度公表済）。
  - ②個人競技参加人数枠は、身体障害者 1,200 名、知的障害者 1,200 名、精神障害者 140 名の計 2,540 名の総数は保持し、身体障害者の 1,200 名の中から、陸上競技より 120 名、フライングディスクより 20 名の計 140 名をボッチャの枠として移行し新設した。
  - ③ボッチャの都道府県・指定都市選手団からの参加枠については、立位・座位の選手各 1 名計 2 名の 1 チームとする。ただし、開催県については 3 チーム計 6 名、次年度後催県については 2 チーム計 4 名とし、全体総数を 140 名とする。
- ※上記、②・③については、平成 30 年 11 月 29 日付公文書にて、各都道府県・指定都市主管課および各都道府県・指定都市障がい者スポーツ協会へ通知。
- ④令和元年度新たに、ボッチャ競技審判養成講習会開催事業を（一社）日本ボッチャ協会と連携し、全国 4 会場（栃木県、東京都、三重県、大阪府）で開催。
  - ⑤令和 2 年度、引き続きボッチャ競技審判養成講習会開催事業を実施予定。

## ■ 水泳競技における飛び込みスタートについて

現行規則では、スタートにおいて「水中スタートしなければならない障害区分」が存在するが、令和3年度（三重大会）より、スタート方法は、選手が水中スタートまたは飛び込みスタートを選択できるように規則を改正する。また、プールでのスタート台の使用については、（公財）日本水泳連盟の「プール水深とスタート台の高さに関するガイドライン」を遵守すること。

# 令和4年度以降の全国障害者スポーツ大会 競技規則・解説 改正に伴う検討事項

## ■ 年齢区分・障害区分の見直しの検討

①障害別・競技別の個人競技の年齢区分を検証。実状に即した各競技の年齢区分への変更を検討中（平成29年度公表済）としたが、年齢区分のみの見直しであると競技が成立しなくなる等の状況も想定され、選手のこれまでの大会参加の動向も踏まえ、障害区分の見直し（区分の統合等も含め）を併せて検討する。

②陸上競技・水泳について、新たな障害区分（案）を具体的に検討している。なお、2競技については、現行の障害区分（陸上競技計28区分、水泳競技計26区分）をそれぞれ区分統合し、障害区分の総数を減らす方向で検討を進めている。また、知的障害の障害区分も複数区分を導入する方向で検討を進めている。

年齢区分については、競技ごとの設定を検討しており、フライングディスクについては新たに年齢区分を導入する方向で検討を進めている。

## ■ 個人競技・団体競技の役員数の見直しの検討

現行の個人競技の役員数については、「選手10名まで10名以内とし、選手10名を超える場合は超えた選手3名につき1名を増員できる。また、団体競技においては、グランドソフトボールにおいては7名以内、それ以外の競技（男女別）は3名以内の役員を加えることができる」としている。しかし現在、選手の障害程度や役員の役割の多様化により、役員を増員して派遣している選手団が大多数であるため、現状を分析し、役員数・役割の見直しを検討する。

## ■ フットベースボール競技における競技名の変更について

フットベースボール競技について、競技団体名の変更が予定されており、それに伴い、競技名についても「フットベースボール」から「フットソフトボール」へ名称変更する方向で調整を進めてきた。名称変更の導入時期については、令和4年度栃木大会より、「フットソフトボール」と競技名称を変更する。

## ■ サッカー競技における競技時間の変更について

サッカー競技について、近年、選手の競技力向上が著しい中、国民体育大会サッカー競技と試合時間を同様とする検討が行われてきた。そのため、現行「ハーフタイムをはさんで、前後半各30分の競技時間とする。」としている規則を、令和4年度栃木大会より「ハーフタイムをはさんで、前後半各30分とする。ただし、決勝戦及び3位決定戦は、ハーフタイムをはさんで、前後半各35分とする。」ことに変更する調整を進めている。